

小平市立小平第五中学校  
校長 澤川 菊雄様

小平市立小平第五中学校  
PTA役員会代表

## 要 望 書

まず、本校教諭 疋田 哲也教諭に対して社会人としての常識的かつ適切な処分を、一日も早く通告していただきという 200 件以上の苦情や意見が、私達PTA本部に寄せられていることをご報告致します。そこで、寄せられた苦情や意見、また問題点を以下に列記します。

### 1. ソフトテニス部の部活動

- ① 理科室でソフトテニス部員がお弁当を食べていた時、生徒が缶ジュースを持ってきていたことに腹を立て、その生徒を床に倒し、内ばきのままでその生徒の頭を踏みつけた。
- ② 部活動中に、生徒の体にラケットを投げつけるのは日常茶飯事である。
- ③ 練習試合中、生徒のプレーに腹を立てベンチをけったり、試合中にもかかわらず試合球をまったく違う方向に投げることもあった。
- ④ 事件後、部活動中「おれに何かあったら、お前らの受験にひびくぞ。テニス部がなくなってもいいのさ。」と子供たちを脅すようなことを言った。
- ⑤ 学校が9月10日に開いた緊急全体保護者会後、テニス部の保護者を集めて「おれは悪くないから都教委は処分できないでいる。悪いのは校長や市教委のやつだから、あいつらは今静かにしている。」と豪語した。
- ⑥ 安心して部活動ができる環境を整えて欲しい。先生本人から直接、生徒と保護者に対して謝罪の意を含めた言葉が聞きたい。(テニス部保護者多数の強い要望)

### 2. 授業中

- ① 平成 14 年度 1 学期から、一年生の理科の授業中にたびたび「市教委、教育長、校長が悪いんだ。おれは悪くない」と攻撃的な口調で話していた。そのためにたびたび授業が30分以上もつづれた。その間保護者より「やめて欲しい。」と苦情が殺到し、「もうやらない」と謝罪したにもかかわらず、何度も繰り返し授業をつぶしている。
- ② 平成 15 年 1 学期中に 1 年生の理科の時間で①と同じことをやっていたので、保護者が直接学校に抗議をしたりすると翌日の授業で「誰の親が自分を批判したのか。自分には弁護士が二人もついていると親に言っておけ。」と生徒たちをおどすようなことを言った。
- ③ 車通勤の件で注意され教頭先生とのやりとりをボイスレコーダでひそかに録音し、授業中に生徒たちに聞かせた。
- ④ 「拾ってきた」という豚の解体のビデオを授業中に見せられて、気分が悪くなった生徒がいた。
- ⑤ 毎回テストの点数を読み上げながら返却していたので、病欠のため0点だった生徒がこれをきっかけに不登校になった。
- ⑥ 授業が始まってすぐに「これから出張に行く。」と言って生徒たちには何の指示をせずに行ってしまった。生徒たちは何をしたらいいのか困り職員室にいるほかの先生に指示をもらった。
- ⑦ 長崎市の男児誘拐殺害事件のすぐ後に犯人である少年の名前をインターネットで調べ、1年生の理科の授業中に自慢げに発表した。
- ⑧ 目につく生徒にチョークや黒板消しを投げつける。
- ⑨ 元素記号を教える際、いやらしい言葉に置き換えて覚えさせた。(平成 10 年)
- ⑩ 教科書や他の理科教師たちとかけ離れた授業なので、受験がとて心配だという声が毎年多数あがるが、指導方法は全く改善されていない。
- ⑪ 学年が変わり、理科の担任教師が変わると、「理科の授業がこんなに穏やかなものだとは初めて知った。」と子供たちが親に訴える。

### 3. その他

- ① 自分の思い通りにならないと、生徒たちのいる前でも乱暴にドアの開け閉めをしたり、教室の壁や廊下を足で蹴るなど、人を威嚇するような態度をとる。
- ② 他の教師との口げんかを大声で攻撃的な口調で生徒たちの前で行う。
- ③ 生徒が選択科目を選ぶ用紙に「親が教育委員会にいける人」と書いてあった。(別紙参照④)
- ④ 何もわからない学級委員の生徒たちに「日の丸をどう思うか」と訴え、自分の意見を通すために自分の判断で生徒を使って保護者にアンケートを出した。(別紙参照⑤)
- ⑤ 事件報道の後、なぜ疋田教諭が本校に来て今までと変わらない生活を続けているのか、生徒たち

の中にじわじわと他の大人たちに対する不信感が芽生え、「学校で先生を見るのもいや」と訴える声が増えている。

- ⑥ 普段から生徒たちに対して「おれは跡が残らない殴り方を知っている。けんかのしかたがへたくそなんだよ。」と自慢げに話している。
- ⑦ 校長先生が単に疋田教諭を目の敵にしていじめていると思い込み、「校長は悪い人だ。」と親に話して聞かせる生徒が多数いる。実際に校長先生に抗議に行く生徒もいる。

## 要望

1. 直接被害を受けた生徒と、裏切られた生徒たちの心の回復のことをご配慮いただき、少なくとも来年平成16年3月までは、疋田教諭を教壇に立たせないでいただきたい。
2. 一日でも早く、適切な処分通告を発していただきたい。
3. 生徒を教える資質、指導力に欠ける教員なので、システムにのっとった厳しい研修を課してもらいたい。

これらの苦情や生徒が実際に親に訴えた事柄は、ここ2、3年間の内容です。もっとさかのぼれば、これ以上の件数が増えると予想されます。

これまでの疋田教諭の言動から見て、今回の事件の「体罰はなかった」という言葉は、全く信用できません。ましてや、当該生徒が精一杯がんばって通っている学校で、嘘をついた者がのうのうと過ごしていることは許せません。また校長先生の職務命令も聞かなかった人間に、これから反省してやり直す気持ちがあるととはとても考えられません。

確かに私たちに寄せられている意見の中には擁護派もいます。ただしその内容は、テニス部の存続に対する不安がほとんどですので、「練習時間や方法など、今までと同じように指導してくださる先生がいらっしゃるなら、疋田教諭にこだわらない。」というのが大半の意見です。

テニス部の顧問は別の人でも対応できますが、親や生徒の不安や不信感は疋田教諭がいる限り解消しません。特に、当該生徒は、3年生で受験を目前に控えています。被害者の心情、安全、安心確保のためには、少なくとも年度内は、絶対に教壇に立たせないでいただきたい。これを最優先にお願いいたします。

今、学校での生徒たちは、一見落ち着いているように見えますが、家で親に訴える数が、じわじわと増え続け、「学校に行きたくない。」という生徒たちを心配している親から、私たちの方へ苦情や相談が殺到している状態です。このまま疋田教諭を教壇に立ち続けさせれば、大人全体に対する生徒の不信感が育ってしまうのが、とても恐ろしいです。先生を信じていた生徒や親ほど、裏切られた思いが強く、それが学校全体への不信感になりつつあります。裏切られ続けた親としては、このような人間にはかけがえのないわが子を任せられません。今のままでは、校長先生の言う安全、安心など考えられません。

生徒の前に立たせる前に、生徒を教える資質に欠ける教員、指導力不足の教員には、システムにのっとった厳しい研修を課すことを強く望みます。重ねて社会人として常識的かつ適切な処分を一日も早く決定していただくことを、ここに保護者の総意と判断し要望いたします。

なお、同じ文書を市教育委員会教育長にも提出いたします。